

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3971000025
法人名	有限会社 ラッセル社
事業所名	あっとほ一む 四万十
所在地	〒781-2321 高知県四万十市西土佐用井734
自己評価作成日	平成22年3月6日
評価結果市町村受理日	平成22年7月28日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3971000025&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様との信頼関係を築きながら、自宅とかわらないアットホームな雰囲気作りを目指してケアをしています。また、生活リハビリを中心に、時間、日課に捉われず、ゆっくり、のんびりとした生活ができるように、一人ひとりに合わせて援助時に拘束や強要のないように心がけています。そして、いつでも外へ出られるように、玄関は夜間以外は鍵をかけず、本人の意思を尊重しながら対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

食事の場面では、あちこちで利用者同士の会話が聞かれ、時には職員も加わり話の輪が広がる。微笑み合う姿や暖かい視線の交流など、ほのぼのとした雰囲気がある。職員も一緒に食事をとりながら支援しているが、集団の中で誰一人として目立つことなく、自然体で利用者と一体化している。介護計画の作成にあたっては、利用者一人ひとりにしっかり向き合い利用者本位のプランが練られ、実践に結び付けている。今後も、家庭的な雰囲気の中で、利用者がその人らしく暮らすことのできる事業所として期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	呆けても自分らしく生きられる。 (Relation. 地域の皆様とのつながり、Respect. 高齢者を尊敬する、Quality. 介護の質)を理念とし、基本的な認知症ケアを盛り込み職員間で共有し、理念の実現に取り組んでいる。	その人らしさを尊重し、日々のケアに当たっては、「ゆっくり、のんびり。楽しく」の三点をキーワードに、ケア項目ごとにサービス内容を話し合い共有し、チームケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、入居者の体調面にも配慮しながらできるだけ参加するように心がけているが、インフルエンザや入退院を繰り返す方が多く、あまり参加できていない。自治会には参加しており、回覧板等で情報を得て交流につなげている。	自治会や運営推進会の委員等から地域の情報を得てふれあいホールでの催し物等に参加している。子ども達が神祭で神輿を担いで訪れたり、地元でとれる野菜等を頂いくなど、交流している。また、地域の独り暮らしのお年寄りの電話相談に応じるなど地域向けに発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの相談や質問には随時応じている。事業所の取り組みとして、認知症サポーター研修を開催している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度会議を行っている。評価や取組み等を報告し、参加委員から意見等が出され、サービスに活かしている。今後、資料等の工夫もしていく。	事業所から活動状況や評価結果などについて報告し、委員から意見や提案が出され、運営に反映させているが、議事録には議題の内容や話し合いの状況等が記録されていない。	運営推進会議の意見交換等の内容を職員間で共有したり、第三者にも状況が分かるようにするためにも、議事録を整備しておくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>認定調査などで来園の際、ホームの状況報告をしている。毎月2回行われる担当者会議にも極力参加するようにしている。また、運営推進会議には、地域包括支援センターなどから協力を得ている。</p>	<p>運営推進会議や市主催のグループホーム担当者会、介護度認定時等を通じて協力関係を築き、事業所の状況報告や相談を行うなどしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、転倒、介助のため止むを得ない場合は家族に相談し同意を得ている。今後も、勉強会を重ね職員に徹底していく。</p>	<p>身体拘束の内容と弊害については学習会で職員の理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド柵については、状況に応じて同意を得て最小限使用することがある。外出傾向にある利用者には随時同行し、外出中のリスクについては家族と話し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日常より気をつけ、言葉の虐待にも注意を払っている。毎月のスタッフ会議で時々勉強会をしている。これまで虐待の事実や発見はない。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者とホーム長が対応しており、他の職員は正確に理解していない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームのケアに関する考え方、取り組み、退居を含めた対応等について説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や気になることがあれば申し送りノートや口頭でそのつど伝えていきます。運営推進会議にも利用者、家族の方に参加をしてもらっています。しかし、意見や苦情などなかなか出てこないのが現状です。	利用者については、その都度気にかけて聞き取って対応し、家族については、面会時や電話で意見や要望を聞き対応している。家族会はなく、今のところ苦情は出されていない。	家族は身内が世話になっていることで、意見が言い出し難いことを理解し、事業所以外の相談窓口を伝えたり、家族同士での話し合いの機会を設けるなどの取り組みを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で職員間の意見交換を行っている。以前より意見は出るようになり、介護の仕方など話し合い、ケアにつなげている。	毎月の職員会や日頃の業務の中で職員から意見や提案を聞く機会を設けている。職員の気づきやアイデアをもとに話し合い、できることから取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議で職員とのコミュニケーションを図り、働きやすい環境整備に努めている。また、色々な加算が取れるように努力し職員に還元している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等には参加するようにしているが、計画はできていない。スタッフ会議等で認知症ケアについての学習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修等に参加し、情報交換などして交流し、サービスの向上に活かしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にご本人と話をする機会を設け、生活状態などを聞き、安心して利用していただけるように、信頼関係が築けるように努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前にご家族と話ができる機会を設け状況把握に努めている。また、事業所としてどのようなサービス対応ができるか説明している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>地域の介護支援専門員をはじめ関係する専門職の方々と連携しながら、迅速な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応や情報の提供を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	本人が出来ることは、可能な限りしてもらい、お互いが協働しながら過ごしている。		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族の面会時や必要に応じて本人の近況などを連絡相談し、本人を支えるための情報共有と協力を得ている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	通い慣れた地域の理髪店や美容院に行ったり、本人の希望や要望に応じ出来る限り外出するようにしている。	買い物や理美容院は行きつけの店を利用し、墓参り等は家族の協力を得て行うなど、馴染みの関係が途切れないう支援している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	その場の雰囲気や状況を見守り、個人の気分や感情などを把握するように努め、利用者同士が楽しく過ごせるように支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	他事業所に移られた方には、時々面会に行ったりしている。また、退居後も、出来る限り必要に応じた関わりを持ちフォローしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、言葉や表情から意思疎通に努め、意思を伝えやすい環境をつくり、本人の意向を把握するようにしている。また、家族や関係者からも情報を得て、本人の意向に沿うように検討している。	利用者一人ひとりの生活パターンを把握し、日々の暮らしの中に活かしている。また、日常的な関わりの中で、言葉や表情、身振りなどから本人の意向を汲み取り、全職員で共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴やこれまでのサービスの利用など、家族や関係機関等より情報を集めて、これまでの暮らしの経過について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やチェック表を確認して、入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、把握に努めている。その方のできることから声かけをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族より日頃から思いや意見を聞き介護計画に反映させている。入居者の状態や変化に応じて、日々の申し送りやケアカンファレンスでアセスメントを含めて、職員で話し合い介護計画の作成に活かしている。また、医療行為があった場合、医師や看護師の意見を聞いて協議している。	家族の意見や要望も聞き、職員の気づき等も踏まえ、必要に応じて医療関係者とも協議しながら、職員全員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。日々の実践は毎月評価し、家族に報告している。介護計画の見直しは3カ月毎に行い、状況の変化に応じてその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や出来事に対する対応を個人記録に午前、午後、夜間と記録し、いつでも職員が確認できるような情報の共有をしている。ミーティング等でより良いケアの実践ができるよう話し合い介護計画の見直しに反映している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じての通院送迎（医療処置を受けながら生活の継続）等、必要な支援は柔軟に対応している。また、特別な外出や外泊などの送り迎えなど、個々が満足するように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>あったかふれあいセンター事業のサロンへの参加を計画している。また、運営推進会議に市議会議員と地域統括支援センターの職員に参加してもらい、意見交換や情報ももらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医の他、本人や家族が希望するかかりつけ医がある場合、家族と協力して通院介助を行っている。</p>	<p>かかりつけ医、専門医ともに利用者、家族の希望に沿って受診できるように支援している。受診結果については、申し送りノート等で職員間で共有し、家族とも連絡合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職員はいないが、受診の際はバイタルチェック表や記録を持って行き気軽に相談したり、連絡はとっている。緊急時は、協力病院に連絡して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院中不安にならないように、なるだけ毎日顔を出している。その方の状態に応じてホームでの対応可能な段階で早期退院できるように病院にアプローチしている。家族との情報交換も頻繁に取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その方の状態により家族等の意向に沿って支援している。本人、家族等、かかりつけ医、ケア関係者などと十分な話し合いを行い、医療行為での入院以外は、通院、往診等で可能な限りホームで対応することを共有している。	重度化や終末期に向けた対応方針は作成していないが、家族等に意向を聞き、状況に応じて医療関係者と話し合いを持ちながら支援している。	運営基準（医療連携加算）とは別の視点で、利用者が安心して事業所で暮らすため、重度化等に関して、事業所ができることなど話し合い、方向性を見出すなどの取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目に付く場所に対応方法や緊急連絡網を貼り周知徹底を図っている。また、職員は消防による普通救命講習を終了しているものが多く、新しい職員についても随時訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の火災総合訓練を実施している。また、災害に対してのマニュアルを作成している。消防との連携は、職員に消防団員がいて取れているが、地域との協力体制が取れておらず不安がある。	定期的に事業所で避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。避難経路の確保、消火器等の点検は行っているが、災害時に備えた食料等の準備はできていない。	災害時には地域住民の協力が欠かせないので、引き続き運営推進会議のメンバーや消防関係者と話し合い、地域住民の参加を働きかけるとともに、非常用食料等については、高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルに示す目安量を参考に検討することを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持ち、一人ひとりの人格を尊重している。入居者に対する言葉使いや行動に十分注意をしている。個人記録にはイニシャル表示をし、スタッフ会議や日々の申し送り等で関わり方など話し合い周知を図っている。	日々の生活の中で、利用者のプライドやプライバシーを大切にしたいケアに取り組んでおり、声かけや介助場面では、常に周囲への目配りなど意識しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに合わせて声をかけたり、その方の表情や行動で読み取り、本人が決定しやすいように雰囲気づくりをしている。職員が強制するのではなく入居者が自発的に出来るように努めている。	/	/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者一人ひとりの体調や気持ちを尊重して柔軟に支援している。他の利用者との共同生活のなかで、可能な限り個々の希望に沿った支援をしている。	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、その方に合う衣服を職員と一緒に選んだりしている。自分で着替えることのできる人は、自分で選んでもらい、職員は見守り、介助が必要なときだけ手伝っている。カットなどは家族や職員と馴染みの美容院などに出かけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切るなどの準備や食器の準備をできる範囲でもらっている。食事は、同じテーブルで楽しく会話をしながら食べ、片付けの食器洗いや食器拭きその後の片付けを職員と一緒にしている。	利用者の意向や力に応じて、週2回の買い物や下ごしらえ、調理、盛り付け、片づけなど職員と一緒にしている。食卓では、利用者同士や職員が和やかな雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、個々の嗜好を把握し献立に入れ、診療所の管理栄養士のアドバイスをもらっている。摂取状況については、チェック表を作成して食事量を把握している。水分確保については食事やおやつのほか、入浴や運動の後に声かけしたり、夜間は枕元にお茶を準備するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声かけをして、個々に職員が見守り介助している。就寝前には義歯の洗浄をしている。また、週に2回は洗浄剤で義歯の洗浄をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄記録をチェックし、排泄のパターンや習慣を理解して誘導支援している。また、夜間はオムツでも、日中は布パンツにパッドで対応し、定期的にトイレに誘導している。	一人ひとりの排泄パターンや排泄のサインをチームで共有し、トイレでの排泄と布のパンツの着用など、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排泄について気をつけ、食事では繊維質の多い食材を使用することや、水分補給に気をつけている。散歩や生活リハビリ等で、自然排便を促している。必要に応じて服薬座薬等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望を確認しながら毎日入浴を支援している。入浴を好まない入居者については、時間にとらわれずタイミングを見計らったり、声かけを変えてみたりして支援するようにしている。	日中はいつでも入浴できる状態にあり、利用者の希望に沿って柔軟に対応している。入浴の拒否がある場合は、無理強いせず、時間を置いて声かけしたり、職員が交代するなど工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況や入居者の数日間の活動などを把握して、本人のペースや疲れ具合に合わせて休息できるように支援している。状態によっては、日中静養する時間を作っている。薬剤等を使用する場合は家族や医師と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ファイルを作り、スタッフ会議で薬剤情報を確認している。また、薬の変更などがあった場合は、医療情報ファイルへの記入と申し送りで確認している。服薬時は本人に手渡し、服薬の様子を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりができることや趣味などを理解し、楽しく過ごせるように支援している。編み物や折り紙など得意な方から他者にプレゼントをしたりしている。役割も強制するのではなく、一人ひとりが進んで行える雰囲気づくりをしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の意向や職員の声かけで散歩に出かけ、近所の方と挨拶したり、花を摘んで帰るなど支援をしている。また、日常的に買い物やドライブなどにも出かけている。</p>	<p>日常的に散歩や買い物、庭先での日光浴等を行っている。お宮参りのほか、花見、ドライブなど季節に応じて行楽などに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物など必要時に預かり金から本人に渡したり、自分で管理している方の支払いなど、見守り支援をしている。預かっていない場合も、事業所が立て替えて、利用者がお金を支払うことなどの支援もしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人から要望がある時は、プライバシーへの配慮の観点から自室にて電話をしてもらっている。手紙については職員が代筆したり、自室で書いてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の状況や室温により、天窓を開けたりカーテンを引くなどの配慮をしている。また、夏の暑い季節には、リビングの窓に寒冷紗を張るなどしている。入居者の方が季節を感じ取れるように季節の花を飾ったり、お雛様やこいのぼりなど季節の行事に合った飾り付けをしている。</p>	<p>季節の生け花や飾り付けで、季節感を採り入れたり、室温や採光の調整に配慮している。また、一般家庭で見られる家具や、畳コーナー、日当たりの良い場所にソファを置くなど、利用者がゆっくりくつろげる共用空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>限られたスペースの中、リビングにはソファを置き、気の合う方同士が座り思い思いに過ごしている。デッキにも縁台を置いており、天気の日などに日光浴などしている。また、畳の間も設けており、横になったりしている。入居者と職員が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の家具や寝具等はなるべく使い慣れたものを持ってきてもらっている。また、入居者や家族の思いで、写真（孫やひ孫など）や花を飾ったり、仏壇等を置き、自分のスタイルで過ごせるように配慮している。</p>	<p>使い慣れた寝具やタンス、家族の写真、仏壇、利用者の手作りの折り紙作品等、利用者一人ひとりの個性を大切にして、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下や浴室などに手すりを付けている。流し台は高さの低いものにして入居者の方が使いやすいようにしている。トイレや風呂場には張り紙や暖簾をしてわかり易いようにしている。また居室、引き戸の横に名前を書き、本人や他者にも分かるようにしている。今後も入居者一人ひとりができることや分ることを理解し安全に生活が送れるよう工夫していく。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名： あつとほ一む四万十	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない